

# 研究アウトプットと研究者属性の関係性分析 (Scopus + J-Stage版) ～ 分析ツールの使い方と分析事例 ～

---

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局  
エビデンスG



# 「研究アウトプットと研究者属性の関係性分析」

研究者属性に基づく研究アウトプットを把握することが可能です。「Scopus+J-Stage版」では、研究アウトプットの評価には英語論文（Scopus収録論文）だけでなく日本語論文（J-Stage収録論文）も含まれます。

## 1 研究アウトプット（図上下）

表示させたい研究指標を選択します。

- ▶ 論文数（研究者単位）※
- ▶ 被引用数（研究者単位）
- ▶ 論文数（著者単位）
- ▶ 被引用数（論文単位）

※ 項目名については「用語等の解説」ページを参照

## 2 論文カウント（図上）

論文のカウント方法を選択します。

- ▶ 整数カウント
- ▶ 整数カウント（筆頭著者のみ）
- ▶ 分数カウント

## 3 研究者数の表示（図下）

数もしくは割合のどちらで可視化するかを選択します。シェアは「分類（図上下）」で選択した項目の割合が可視化されます。

- ▶ カウント
- ▶ シェア

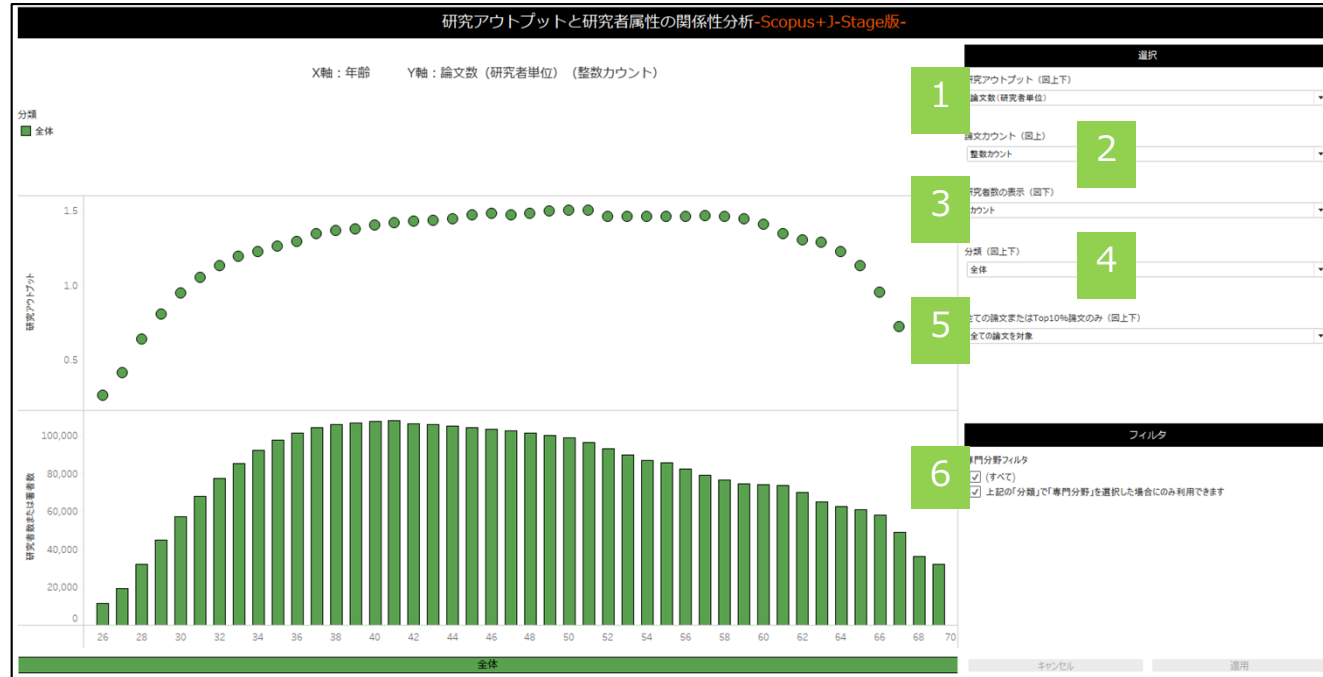
## 5 全ての論文またはTop10%論文のみ（図上下）

全ての論文もしくはTop10%論文のどちらを分析対象とするのかを選択します。

- ▶ 全ての論文を対象
- ▶ Top10%論文のみを対象

## 6 専門分野フィルター

「分類（図上下）」の項目にある「専門分野」を選択した場合、研究者の属性を各専門分野ごとに可視化することが可能です。専門分野はScopusのASJCによる27中分類に区分されています。



## 4 分類（図上下）：どのような研究者属性で可視化するかを選択します。

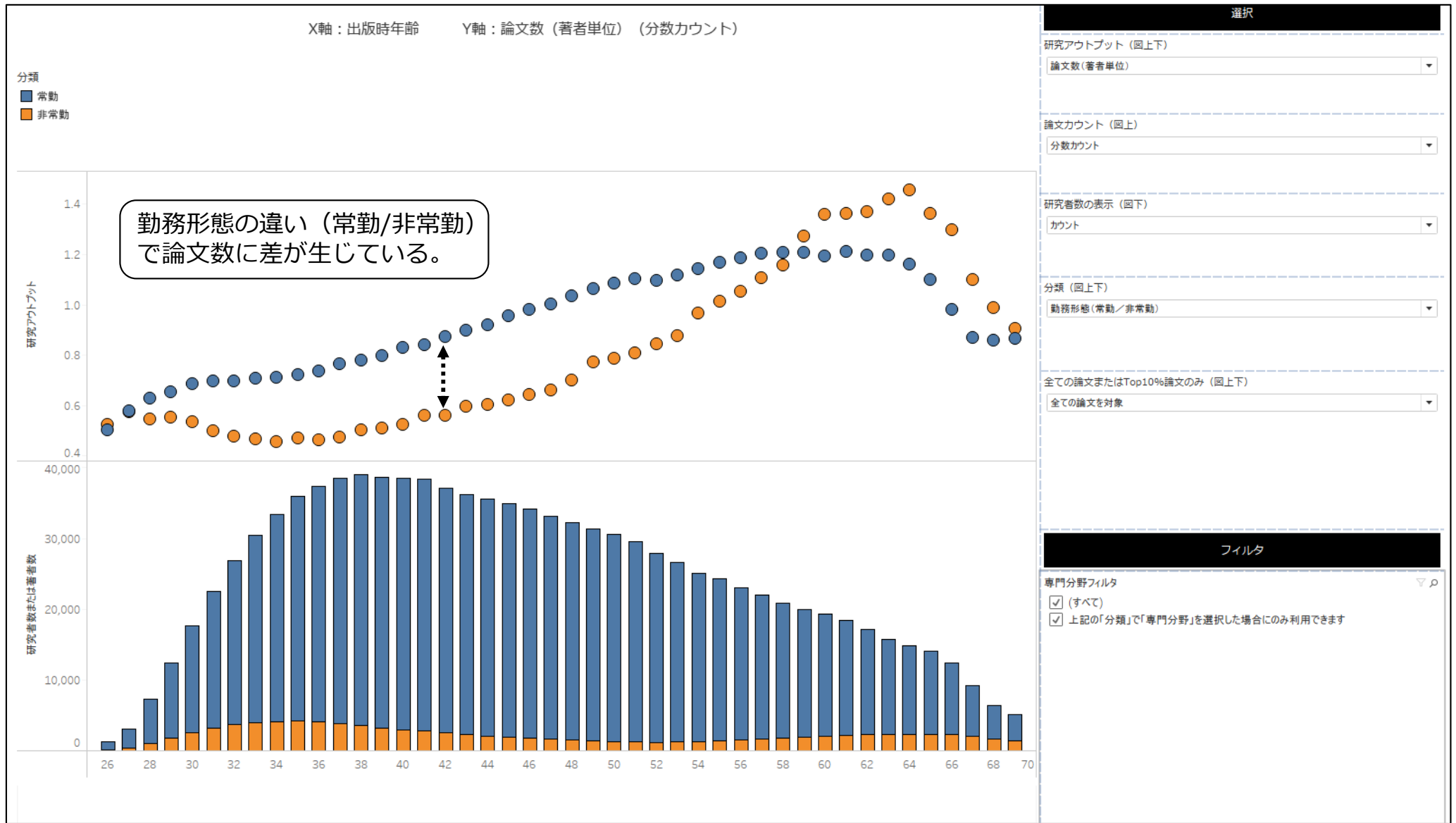
- ▶ 全体
- ▶ 性別
- ▶ 任期の有無
- ▶ 勤務形態（常勤/非常勤）
- ▶ 雇用財源（安定財源/外部財源）
- ▶ 専門分野（書誌情報から推定した研究分野）
- ▶ 機関種別（国立/私立/独法/民間）
- ▶ 機関種別（成果を中心とする実績状況に基づく配分におけるグループ）※

※ グループの内訳については「グループ詳細」のページを参照

# 分析事例①：「勤務形態（常勤/非常勤）による研究アウトプット（論文数）の比較」

## 【選択条件】

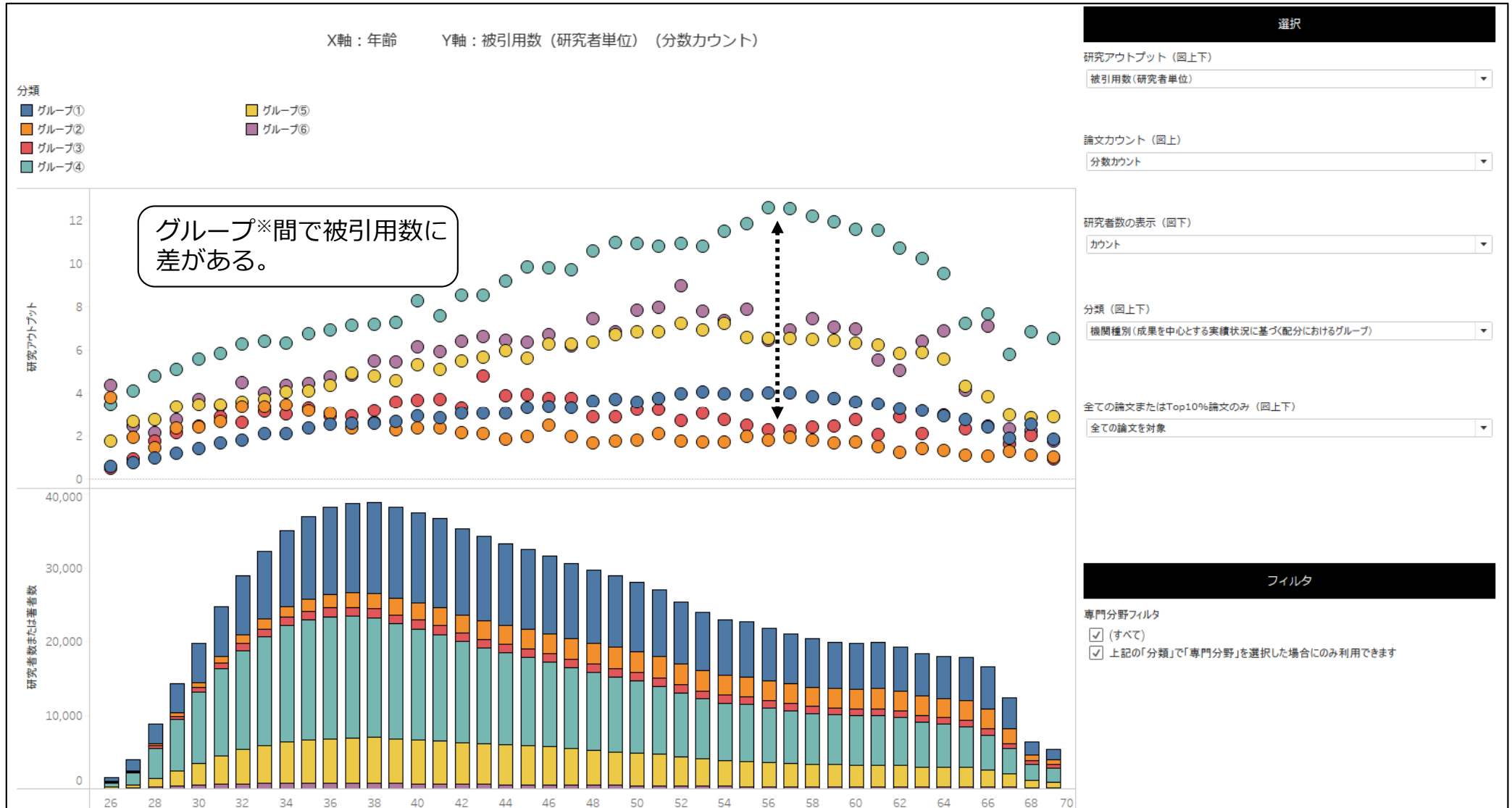
- 1 研究アウトプット  
▶ 論文数（著者単位）
- 2 論文カウント  
▶ 分数カウント
- 3 研究者数の表示  
▶ カウント
- 4 分類  
▶ 勤務形態（常勤/非常勤）
- 5 全ての論文またはTop10%論文のみ  
▶ 全ての論文を対象



# 分析事例②：「グループ間での研究アウトプット（被引用数）の比較」

## 【選択条件】

- 1 研究アウトプット  
▶ 被引用数（研究者単位）
- 2 論文カウント  
▶ 分数カウント
- 3 研究者数の表示  
▶ カウント
- 4 分類  
▶ 機関種別（グループ）
- 5 全ての論文またはTop10%論文のみ  
▶ 全ての論文を対象

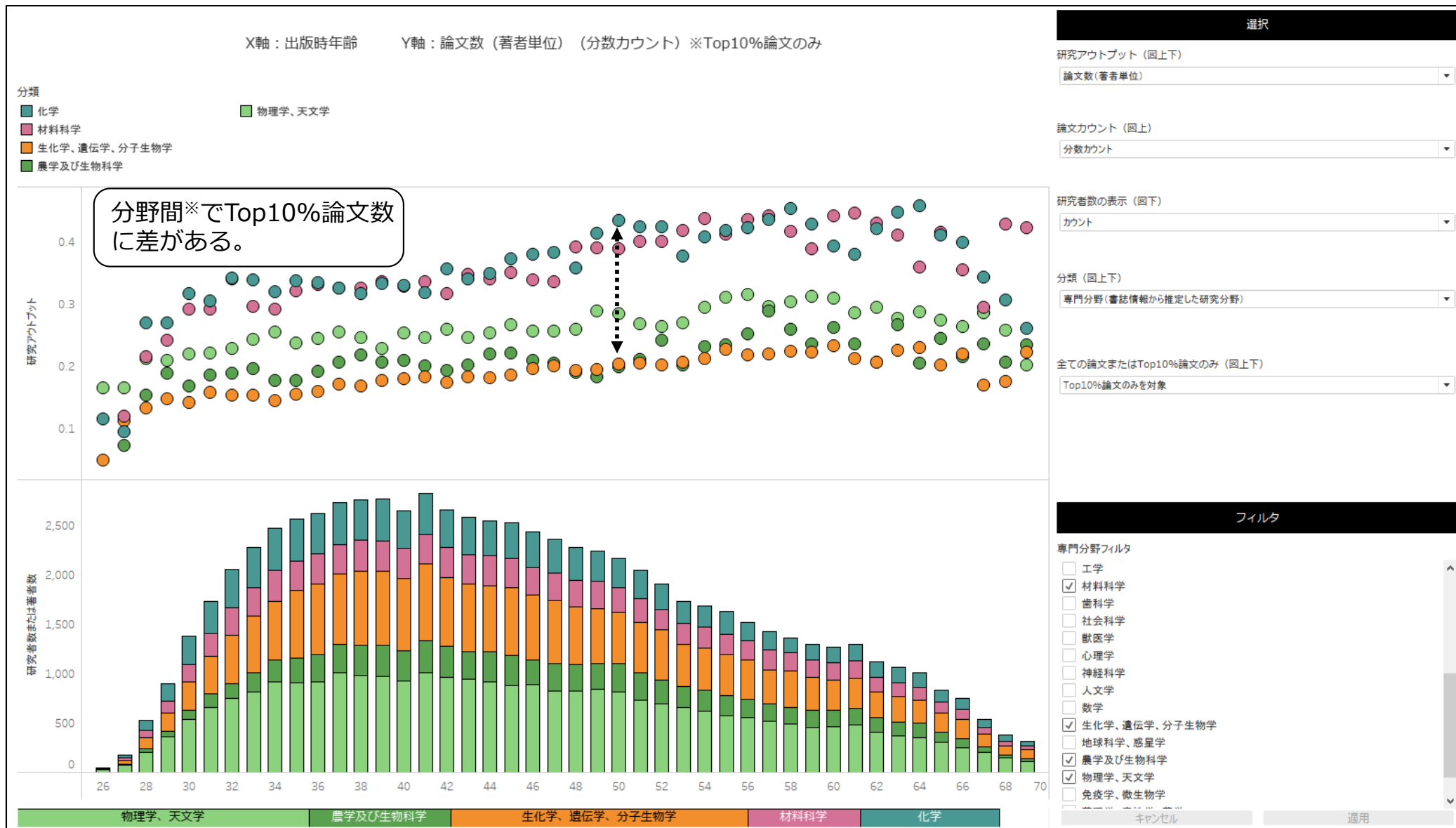


※ グループの内訳については「グループ詳細」のページを参照

# 分析事例③：「研究分野間での研究アウトプット（Top10%論文数）の比較」

## 【選択条件】

- 1 研究アウトプット**  
 ▶ 論文数（著者単位）
- 2 論文カウント**  
 ▶ 分数カウント
- 3 研究者数の表示**  
 ▶ カウント
- 4 分類**  
 ▶ 専門分野（研究分野）
- 5 全ての論文またはTop10%論文のみ**  
 ▶ Top10%論文のみを対象



※ 「物理学、天文学」, 「農学及び生物科学」, 「生化学、遺伝学、分子生物学」, 「材料化学」, 「化学」の5分野での比較

## 用語等の解説 (1/2)

指標名	解説
被引用数	その論文が他の論文に引用された回数。他の論文で引用が多いほど、学術的な波及効果が高い論文であることを示す。Top10%論文を決めるための指標ともなる。
Top10%論文数	出版された論文が、その出版年において上位10%に相当する被引用数を得た論文。出版された論文の質を測るための指標の一つ。

換算方法	解説
(研究者単位)	全研究者を母数として平均値を算出する換算方法。例えば「論文数(研究者単位)」の場合は、論文の執筆が無い研究者も1人と換算し、平均値を算出する。
(著者単位)	「研究者単位」での換算方法と異なり、論文の執筆がない研究者は平均値の母数に換算せずに、平均値を算出する。例えば「論文数(著者単位)」の母数は論文執筆のある研究者のみで平均値を算出する。
(論文単位)	論文数当たりの平均値を算出する換算方法。例えば、「被引用回数(論文単位)」の場合は、対象となる論文の被引用回数を合計し、その論文数で割った値で平均値を算出する。
(筆頭著者のみ)	ある研究者が出版した論文において、その研究者がその論文の筆頭著者(First Author)である場合において1報と換算する方法。例えば、「整数カウント(筆頭著者のみ)」の場合は、筆頭でない論文はカウントされない。
(常勤/非常勤)	複数の機関に所属する場合には、いずれかの機関で常勤として勤務している場合には、常勤の研究者としてカウントされる。
(書誌情報から推定した研究分野)	研究者の専門分野は、Scopusにおいて自動的に分類されるASJC中分類を参考に、出版論文において最も多い分類をその研究者の専門分野としている。

## 用語等の解説 (2/2)

論文カウント (図上)		解説
整数カウント		1つの論文に複数の共著者がいる場合に、それぞれの著者の出版数を1報とするカウント方法。例えば、1報の論文に8名の共著者がいた場合、それぞれの著者は1報の論文を出版したとして数える。
分数カウント		1つの論文に複数の共著者がいる場合に、それぞれの著者の出版数を著者数で割った数とするカウント方法。例えば、1報の論文に8名の共著者がいた場合、それぞれの著者は0.125 (1/8) 報の論文を出版したとして数える。
研究者数の表示 (図下)		解説
カウント		それぞれの指標において該当する個数を表示する。
シェア		それぞれの指標の「分類」ごとの割合を表示する。
分類 (図上下)		解説
性別		男女で分けて表示する。
任期の有無		研究者の雇用の任期の有無に分けて表示する。複数の機関に所属する場合には、いずれかの機関に無期雇用されている場合には、任期の無い研究者としてカウントされる。
勤務形態 (常勤/非常勤)		研究者の勤務形態に分けて表示する。複数の機関に所属する場合には、いずれかの機関で常勤として勤務している場合には、常勤の研究者としてカウントされる。
雇用財源 (安定財源/外部財源)		研究者の人件費の財源に分けて表示する。特定のプロジェクトや事業から人件費が捻出されている場合には「外部資金」に該当する。
専門分野 (書誌情報から推定した研究分野)		各研究者をその専門分野に分けて表示する。研究者の専門分野は、Scopusにおいて自動的に分類されるASJC中分類を参考に、出版論文において最も多い分類をその研究者の専門分野としている。
機関種別 (国立/私立/独法/民間)		各機関を国立、私立、独立行政法人、民間の4種分けて表示する。
機関種別 (成果を中心とする実績状況に基づく配分におけるグループ)		各機関をその規模や組織体制の観点から分けられた6つのグループ別に表示する。

## グループ詳細 (1/1)

グループ番号	機関名
グループ①	旭川医科大学, 弘前大学, 秋田大学, 山形大学, 群馬大学, 新潟大学, 富山大学, 福井大学, 山梨大学, 信州大学, 岐阜大学, 浜松医科大学, 三重大学, 滋賀医科大学, 島根大学, 山口大学, 徳島大学, 香川大学, 愛媛大学, 高知大学, 佐賀大学, 長崎大学, 熊本大学, 大分大学, 宮崎大学, 鹿児島大学, 琉球大学, 鳥取大学
グループ②	北海道教育大学, 室蘭工業大学, 小樽商科大学, 帯広畜産大学, 北見工業大学, 岩手大学, 宮城教育大学, 福島大学, 茨城大学, 宇都宮大学, 埼玉大学, 横浜国立大学, 長岡技術科学大学, 上越教育大学, 静岡大学, 愛知教育大学, 名古屋工業大学, 豊橋技術科学大学, 滋賀大学, 京都教育大学, 京都工芸繊維大学, 大阪教育大学, 兵庫教育大学, 奈良教育大学, 和歌山大学, 鳴門教育大学, 福岡教育大学
グループ③	筑波技術大学, 東京外国語大学, 東京学芸大学, 東京藝術大学, お茶の水女子大学, 電気通信大学, 東京海洋大学, 総合研究大学院大学, 政策研究大学院大学, 北陸先端科学技術大学院大学, 奈良女子大学, 奈良先端科学技術大学院大学, 九州工業大学, 鹿屋体育大学
グループ④	東北大学, 筑波大学, 東京大学, 東京医科歯科大学, 東京工業大学, 一橋大学, 名古屋大学, 京都大学, 大阪大学, 九州大学
グループ⑤	北海道大学, 千葉大学, 東京農工大学, 金沢大学, 神戸大学, 岡山大学, 広島大学
グループ⑥	(大学共同利用機関法人) 高エネルギー加速器研究機構, 自然科学研究機構, 情報・システム研究機構, 人間文化研究機構